

未来づくりの条例で実現させる 「誰もが住んで良かったと思えるまち」

はじめに

三笠市は、北海道のほぼ中央に位置し、総面積のうち約86%を森林が占め、緑豊かな山々に囲まれた自然豊かなまちであり、その豊かな自然にはぐくまれ桂沢湖に蓄えられた水は、近隣自治体を含めた生活の源としての重要な役割を担っています。

明治元年に「燃える石・石炭」が発見されたことより、開発が進み、その石炭を輸送するために北海道で初めて鉄道が開通されるなど、石炭と鉄道のまちとして発展し続け、あらゆる産業が石炭産業を軸に活況を呈し、今日に至りました。しかし、エネルギー革命による産業構造の大きな変化によって、石炭産業が衰退し、平成元年に110年の歴史を誇った炭鉱が

閉山となった後は、著しい人口の流出が進みました。

現在急激な減少は見られなくなりましたが、社会減と自然減により、依然として人口の減少は続いています。本市は、高齢化率40%を超える超高齢化社会のまちですが、「合併して将来のまちの姿に大きな不安を抱くよりも、自らのまちは自らがつくりよう」との決断から、不転の決意をもって、「自立」を選択してまちづくりに邁進しています。

三笠市未来づくり基本条例の制定

自立の道を選び、まちづくりを進めています。より確固たるものにしていくためには、さらに市民・議会・行政が共通の目標に向かって協力し合う必要

がありました。

そこで、自立を決断した意思をすべての市民に示すため、自治体運営の基本理念、今まで取り組んできた仕組みや手法などを具体的に条例化し、本市の自治の基本と未来のまちの姿を定めることとしました。そして、自治を確立するため、市政を運営するための原則、市民と行政それぞれの役割と責務などを条文化し、「まちの憲法」として定めることとしました。

通常このような条例は、「まちづくり条例」「自治基本条例」と名付けているところがほとんどです。しかし、市民と共に未来のまちづくりを進めるに当たって、将来にわたりまちが発展し、次代を担う子どもたちに安心と希望に溢れたまちとするため、「三笠市未来づくり基本条例」としました。

三笠市未来づくり基本条例の基本理念

・誰もが暮らしてみたい
田園産業都市
市民と市が、緑豊かな自然を守り、環境への負荷に配慮した人と自然との共生、森林や花などによる美しいまちづくりの推進
・日本一安心して
誰もが住み続けたいまち
昔から培ってきた人と人との結びつきを大切にし、お互いを助け合い、まちの歴史を深く知り、その歴史を継承、共有し、自ら地域のことを考え、まちを愛し、未来にわたり生涯を通して安心して暮らせるまちの創造

また、基本理念の実現に向けて、未来のまちづくりについて市民と意見交換を行う「三笠市未来創造会議」を設置することとしました。

厳しい時代こそ新たな自治を実践する絶好の機会

地方分権の本格的な進展、世界的

な不況、そして、政権交代も行われ、先行き不透明な時代において、本市を取り巻く行政環境は一層厳しさを増しています。

しかしながら、このような厳しい時代こそ新たな自治を実践する絶好の機会ととらえ、私は、まちの将来に向けて「身の丈にあった市政」を進めるため、5つの基本方針を示しました。

●「健康で安心してすごせるまちづくり」

「健康は自分でつくる」ことを基本

としながら、市民一人一人の健康に対する関心を高めるとともに、自らも地域福祉の担い手であるという助け合いの意識の浸透、皆で支え合う環境づくりを進めます。

誰もが自立して生活できる福祉社会の実現を進め、生き生きと健康で安心して過ごすごすことができるまちを目指します。

●「活気みなぎり元気に働けるまちづくり」

産業構造の変化や多様化する消費者ニーズなどに対応できるように、異業種間交流をはじめ、活気みなぎる産業の発展を図り、誰もが魅力ある職場で生き生きと元気に働くことができるまちを目指します。

●「水清く緑あふれ快適に暮らせるまちづくり」

「豊かな自然」という貴重な財産を未来に引き継ぐため、市民一人一人が省エネルギー、資源リサイクルなどに関心をもち、環境に優しく、誰もが安らぎと快適さ、便利さを実感しながら生き生きと暮らすことができるまちを目指します。

●「人を育み地域文化を創るまちづくり」

次代を担う子どもたちが、逞しく生きる力と思いやりのある心をは



高さ10.5mの巨大やぐらを中心に多くの人々が踊りの輪を作る「三笠北海盆おどり」

プロフィール



三笠市長 小林和男

- ◆ 面積 302.64 km²
- ◆ 人口 1万822人
- ◆ 世帯数 5702世帯
- 〔将来都市像〕豊かな新時代の創造
希望あふれる人間都市
- 〔まちの特徴〕北海道の石炭と鉄道、「北海盆唄」発祥の地、アンモナイト化石の所蔵量日本一を誇るまち
- 〔特産品〕メロン、スイカ、ワイン、



- 北邦の梅、三笠の鶏醬、石炭さんぎ
- 〔観光〕三笠市立博物館、三笠鉄道村、道立自然公園「桂沢湖」、みかさ梅林 邦梅園
- 〔イベント〕三笠北海盆おどり、みかさ梅まつり、みかさ桂沢紅葉まつり

※面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「住んでよかった」をさらに実感できるまちへ

はじめに

かほく市は、豊かな自然に恵まれ、国内品種では最大級の粒の大きさを誇るルビーロマン(ブドウ)をはじめ、かほつくり(サツマイモ)や紋平柿、長イモなど全国に誇れる特産品の産地であります。また、近代日本を代表する哲学者・西田幾多郎博士の生誕地でもあります。

平成16年3月、「平成の大合併」としては県内第1号として誕生し、本年3月で6年が経過致します。これまでは、新しい市として一体感が生まれるように旧3町の融和を図ることを重点的に取り組んでまいりました。また、地域経済の活性化、小中学校をはじめとした教育環境の整備、子育て支援の充実、安全・安心の確保など、元気なまちづくりを実現するための施策にも積極的に取り組んでまいりました。

組んでまいりました。まだまだ発展途上の部分がありますが、この6年間で胸を張って誇れる成長を遂げてきたと思っております。

本年度は、合併特例法に基づいた「合併特例債の発行」および「普通交付税の合併算定」などの優遇措置期間10年間の折り返しとなる節目の年でもあります。第2次行政改革大綱の策定をはじめ、公共施設の効率的な配置、老朽施設の統廃合および改修計画など、合併特例期間が終了する平成25年度に向けて、今後の市政の方向性を示す重要な年になります。

新たな発展のための取り組み

金沢と能登の結節点に位置する本市にとって、その基盤となる道路整備は非常に重要な課題となっております。そのような中、市北部地区の発展に欠かすことができない能登

有料道路・県立看護大インターのフルインター化が平成21年12月に完成致しました。また、合併支援道路である東西幹線道路の用地買収も始まり、併せてアクセス道路の市道宇気23号線道路新設事業にも着手するなど、市内全域の均衡ある発展に向けて整備を進めております。いずれも利用者の利便性向上、定住促進につながるものと期待しております。

また、「学園台」かるがの団地などの住宅団地では、静かな住環境や住宅建築支援金の充実、さらには前述の道路整備に伴う通勤やショッピングの利便性向上により新しいまちづくりが進んでいます。

今後とも市内の地域間交流を促進し、地域産業の振興や定住人口の増加に向けた魅力あるまちづくりに取り組むたいと考えております。



かほく四季まつり「サマーフェスタ in かほく」キャッツフェスタ会場の様子

安全・安心なまちづくり

高齢者をはじめとする交通弱者の利便性を高めることを目的に試験運行していた福祉巡回バスは、平成21年10月に本格運行を開始致しました。その利用目的も買い物や通院、JR、市役所や金融機関に出掛けるなど多様であり、本格運行の際には、運行時刻やルートを見直し、新たに17カ所の停留所を増設するなど

の改善を致しました。

また、平成21年4月には、災害情報などを素早く知らせ、生活の安全を高める防災行政無線を開局致しました。県内では唯一、消防庁の「全国瞬時警報システム(ジャアラート)」と結び、予測震度5弱以上の緊急地震速報や大津波警報、武力攻撃情報、行政情報などを、市内54カ所に設置した屋外子局の拡声器を通じて放送します。災害の発生時、または、発生の恐れがあるときに、市民の皆さまに迅速かつ正確に情報を伝達し、災害状況ならびに被災後の情報を市民と共有し、速やかに対応を図るものとしております。



国内品種最大級の粒の大きさを誇る「ルビーロマン」

地域の個性を創出する元気なまちづくり

地域農産物に対する重点施策としては、主要農産物6品目(「ブドウ」「柿」「紋平柿」「大根」「かほつくり(サツマイモ)」「スイカ」「長イモ」)のブランド化の取り組みを本格化致しました。商標登録の手続きに加え、加工品の開発や優良種苗の栽培、栽培講習会の開催など、市場価値をより高め、県内外に発信してまいりたいと考えております。

そのほか、「ルビーロマン」という県オリジナルの新品種ブドウも栽培しております。国内品種最大級の粒の大きさ(「巨峰」の約2倍!)と鮮やかな紅色が自慢で、前年のセリでは市内の生産者が出荷した1房に21万円の高値が付き、全国的にも注目を集めました。いずれも大変おいしく、機会がありましたらご賞味いただければ幸いに存じます。

また、「かほく四季まつり」と称して、季節と地域の特色を生かしたイベントを年に4回開催しております。(「桜まつり」(4月)、「サマーフェスタ in かほく」(8月)、「かにカニ合戦」(11月)、「冬の味くらべ」(1月)、「2月」)市内外から多くの皆さまのこ

参加もあり、本市の四季の「豊かな自然」と「味覚」を存分に満喫していただくことができます。

活き活きとした元気な「かほく市」へ

国の三位一体改革による交付税の削減や景気の後退に伴う地方税収入の減少など、地方を取り巻く環境は年々厳しさを増し、予断を許さなないものとなっております。今後は、限られた財源をいかに有効に使うか

が非常に重要な課題であります。活き活きとした元気な「かほく市」を実現するため、市民生活の安全・安心の確保に重点を置き、「選択と集中」という考えの下に、施策や事業の優先順位をしっかりと見極めていきたいと考えております。

市民の皆さまから信頼を得られるように、また、誰にでも誇れる「かほく市」をつくり上げるために、これからも全力でまちづくりに取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 64・76 km²
- ◆ 人口 3万5268人
- ◆ 世帯数 1万1281世帯

〔将来都市像〕海とみどりに抱かれた「やすらぎ」と「うるおい」のあるまち

〔まちの特徴〕風光明媚な日本海に面し、宝達山系、河北台砂丘地、河北潟、大海川など美しい自然に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成16年3月、旧高松町、旧七塚町、旧宇ノ気町で新設合併



かほく市長 油野和一郎



〔特産品・味覚〕スイカ、ブドウ、紋平柿、サツマイモ(かほつくり)、長イモ、大海みそ、加能ガニ、シロギス

〔観光〕石川県西田幾多郎記念哲学館、うみつこらんど七塚、大海西山弥生の里、上山田貝塚

〔イベント〕かほく四季まつり(冬の味くらべ)「桜まつり」「サマーフェスタ in かほく」「かにカニ合戦」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

郷土愛ではぐくむ あたたかな日本一小さな市

コミュニティ豊かな
歴史と文化が息づくまち

蕨市は、昭和40年代ごろから、都心に近く交通の利便性が良いことなどから、東京のベッドタウンとして発展してきました。現在、5・1kmという日本一小さな市に、約7万人が暮らす日本一人口密度が高い市でもあります。

古くは中山道で江戸から2番目の宿場町として栄え、江戸時代末期から昭和初期ごろまでは、「機織りのまち」としてにぎわいを見せていました。こうした歴史や文化を後世に伝えるとともに、まちづくりに生かしていこうと、毎年、8月に30万人近い人でにぎわう「わらび機まつり」や、11月には約13万人が訪れる「中仙道武州蕨宿場まつり」などを開催しています。

には、市民の皆さんの協力が重要であることから、平成21年、作成した地震ハザードマップは、多くの皆さんに参加していただき、日常生活に即した意見や情報を盛り込んで地図を作成することができました。現在は、洪水ハザードマップも作成しているところです。

また、「子育てしたいまち」づくりでは、「子ども医療費」の無料化を入院・通院共に、中学校卒業まで拡大を目指しています。ほかにも、全保育園での延長保育の実施、蕨駅前の保育園整備、そして、留守家庭児童指導室を増設するなど、子育てに関する費用の軽減や夫婦で安心して働ける環境の整備を進めています。「健康に暮らせるまち」づくりでは、誰もが社会参加できるよう、現在、蕨駅東・西口のエレベーター設置を進めて、バリアフリーのまちづく



当時の大名行列を再現した織姫道中大行列は「宿場まつり」の一大イベント

さらに、地域の皆さんと「中仙道蕨宿まちなみ協定」を結び整備した旧中山道は、平成21年11月、都市景観が優れているとして、「環境色彩10選」に選ばれました。

また、本市は成人式の発祥の地でもあります。終戦の翌年、敗戦で希望を失いかけていた未来を担う若者たちを励まそうと、地元青年団が中心となって、「成年式」を行いました。これをきっかけに、「成人の日」が全国に広がり、国民的な行事として定着しています。

市民のあふれる郷土愛を背景に、昭和46年には、全国に先駆けてコミュニティによるまちづくりの推進を図りました。以来、本市では、さまざまな社会の変化に対応しつつ、市民相互の交流を深めながら、まちづくりに取り組んでいます。

くりに取り組んでいます。

また、「健康密度も日本一」をキャッチフレーズに市民の健康増進に取り組む保健センターでは、家庭で健康管理ができる知識を身に付けてもらおうと、「健康密度アップ隊」を養成し、市民と協働して健康で明るいまちづくりを目指しています。「にぎわいのあるまち」づくりでは、現在、産官学と市民からなる「元気な商店街づくり検討委員会」を立ち上げ、空き店舗活用と歴史・文化・観光活用の2つの側面から商店街の活性化を図っており、若い店主を中心とした朝市も始まっています。

「市民みんなでつくり上げるまち」づくりでは、まず、市民の皆さんの願いをしっかりと聞き取ることが大切です。そのために、市長自らが積極的に市民の皆さんのところへ出掛けて、ご意見を伺うタウンミーティングをはじめ、毎月第1木曜日には、市民の誰でも市長と直接、話ができる「市民と市長の面会日」などを実施しています。

各地域のコミュニティ委員会で、多くの市民参加の催しが展開されていますが、平成21年は、住民が主体となって水田のない蕨で田んぼを復活させ、親子や地域で自然と触

市制施行50周年 市民一体でさらなる飛躍を

平成21年、市制施行50周年を迎えた本市は、「歩みつづけて50年 蕨に笑顔 輝く未来」をキャッチフレーズに、さまざまな記念事業を展開しています。

その一つが「わらび子ども宣言」の制定です。この宣言には、「このような蕨の子どもになります」という子どもたちの誓いと「このような蕨の子どもに育ってほしい」という大人の願いが込められています。

また、蕨の魅力を全国に発信しようと販売した「蕨書き順Tシャツ」は、マスコミにも取り上げられ、大反響を呼びました。

さらに、成人式発祥の地・蕨としての取り組みとして、「全国成年の主眼」を広く募集し、最優秀

れ合う「田んぼの学校」も行われ、収穫の喜びを味わいました。こうした、皆さんのまちづくりへの参加意欲を今後も大切にしていきたいと思っています。

日本一小さく、コミュニティ豊かな本市だからこそ、心の通った全国に誇れるまちづくりが可能だと思えます。これからも市民の皆さんと力を合わせて、共に魅力あるまちづくりを進め、市民の誰もが蕨に住んで

プロフィール

- ◆ 面積 5・10km
- ◆ 人口 7万2067人
- ◆ 世帯数 3万5692世帯

〔将来都市像〕 飲みあふれる交流のまち わらび

〔まちの特徴〕 東西4km、南北1・7kmと日本一市域が狭く、人口が過密な蕨市は、かつて中山道の宿場町として栄える。昭和40年代ごろから急速に東京のベッドタウンとして発展。JR京浜東北線で都心へ約30分。交通の利便性もよい。また、成人式の



蕨市長 頼高英雄



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



成年式を企画・運営した成年式実行委員の皆さん(成年式発祥の地記念像の前で)

よかったと思える、日本一の「あつたか市政」をつくり上げていきたいと思っています。

日本一の「あつたか市政」へ 市民の声を大切に実現

本市は、現在、「安全で安心なまち」「子育てしたいまち」「健康に暮らせるまち」「にぎわいのあるまち」そして、「市民みんなでつくり上げるまち」の5つの柱に基づいて市政運営を進めています。まず、「安全で安心なまち」づくり



ひらがなの「わ」をモチーフに市民の交流や飛躍をイメージしたシンボルマーク

渡良瀬川の自然に抱かれ 豊かな生活を創造する

みどり市の概要

わが「みどり市」は、平成18年3月27日に旧笠懸町、旧大間々町、旧東村が合併し、群馬県内12番目の新市として誕生し4年目を迎えました。

赤城山の東麓に位置し、南北に長い地形の中で、北部には足尾山地が連なり、その山塊に源を持つ渡良瀬川が市の北東から南東にかけて流れています。

本市の総面積は208・23km²で、その形態は、イタリア半島によく似ており、市内を南北に縦断する国道122号は東京から栃木県日光市に伸びています。また、本市の南に整備された北関東自動車道太田藪塚ICへのアクセス道路も現在事業中で、北部と南部の人・経済・文化などの地域間相互交流

に欠かせない重要な道路事業として取り組んでおります。東西に走る国道50号は、県都前橋市から茨城県水戸市へとつながり、本市は地域間を結ぶ交通の要衝地としての役割を担っています。

鉄道関係においては、東京浅草へ直結する東武鉄道、上信越新幹線に連結するJR両毛線、また、「日本一乗りたいローカル線」の上位にも選ばれた「わたらせ渓谷鐵道」や上毛電鉄の4路線が運行し、居住や観光にも適しています。

地形と歴史・産業そして観光

市内北部の東町地区は、渡良瀬川に沿うように形成され、首都圏の水がめとして豊富な水をたたえる草木ダムを有し、清らかな河川と豊かな森に包まれたゆとりと潤いのある生活環境です。「富弘美術館」はこの地

る旧石器時代(岩宿時代とも呼ばれる)として教科書に記載されており、本市が誇る史跡として大切に保護されています。

自己決定・自己責任に 基づく自治体運営

現在、われわれ地方自治体も多種多様に変化していく中で、これからはどう財源を確保するかというところに視点を置く必要があると考えます。

本市では、自主財源の確保として収納強化に努めております。また、新しい財源確保のため、ネットライツ、公用車車体広告、広報紙・ホームページなどへの企業広告販売事業、公共施設への自動販売機設置業者の公募、使用しなくなった消防車両ほかのインターネット公売などを積極的に展開しております。

まちづくりの理念そして将来像

本市は、北部の豊かな自然環境と、南部の都市化著しい市街地とが共存しています。そのため、少子高齢化や環境問題などにも配慮しつつ、市街地の無秩序な拡大の防止と豊かな自然環境との共生、



わたらせ渓谷鐵道を走るトロッコ列車

区にあり、飾りのない平易な言葉による素材で美しい詩の世界と、ありのままの自然を透明感あふれる水彩で描いた絵が一つの画面に調和した作品は多くの方に深い感銘を与え、本年度、開館20周年を迎えました。これまでに日本はもとより海外からも600万人もの人々が来場されました。

また、中部から南部にかけての大間々町地区は、渡良瀬川の清流がつくりだした大間々扇状地によって形成され、町名の由来となった「まま」は、その河岸段丘がつくりだした傾斜地崖の呼称であり古くから銅街道の宿場町として栄えました。現在も芝居小屋「ながめ余興場」や清酒・醸造業の蔵元が、いにしへの面影を今に残します。「高津戸峡」に沿って走るわたらせ渓谷鐵道は、「第2の銅山街道」として

そして、子どもから高齢者まですべての市民が日常生活の利便性を享受できるような都市構造の実現が必要と考えております。そのためには、地域の発展をけん引する地区(拠点)をバランスよく配置し、それらが互いに連携することに よって地域の特性を生かした均衡ある発展につなげられるものと考えております。

プロフィール

- ◆ 面積 208・23km²
- ◆ 人口 5万3022人
- ◆ 世帯数 1万8905世帯

- 〔将来都市像〕輝くひと 輝くみどり豊かな生活創造都市
- 〔まちの特徴〕豊かな自然と文化・歴史が息づくまちであるとともに、県内出生率2位と若い人が多い活気あるまち
- 〔市町村合併〕平成18年3月27日、新田郡笠懸町、山田郡大間々町、勢多郡東村が合併して、みどり市となる
- 〔特産品〕トマト、ナス、清酒、醤油、



みどり市長 石原 条



- 製麺(うどん)、椎茸、長人参、ミンク製品、みかげ石、木炭、竹炭、木酢液
- 〔観光〕岩宿の里公園、富弘美術館、高津戸峡、わたらせ渓谷鐵道、ながめ公園、小平の里、草木湖、国民宿舎サンレイク草木、小中大滝、桐生競艇場
- 〔イベント〕大間々祇園まつり、笠懸まつり、草木湖まつり、関東菊花大会、草木湖一周マラソン全国大会、ひまわりの花畑まつり、カタクリさくらまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



紅葉に映える渡良瀬川・はねたき橋

このように、みどり市は、人口や地理的なさまざまな条件を総合しても、決して強い市とは申しませんが、きめ細やかで血の通った行政を行える環境を備えています。私は、総合計画に掲げた将来像、「輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市」の実現に向けて、市民と行政の協働により行政運営を進める所存です。

市民とともに育む環境首都・安城

10年たったら環境首都へ

タイトルにあります「市民とともに育む環境首都・安城」は、平成17年度から始まった本市10カ年の総合計画が目指す都市像です。市民とともに頑張り、日本の環境首都と呼ばれるまちにしようという願いが込められています。

私たちのまちは昭和初期「日本のデンマーク」と呼ばれたほど農業が盛んで、多角的な経営により農家は豊かになり、欧州の文化的な農業国家デンマークに例えられました。

しかし、高度経済成長期に入ると、名古屋から30kmの近距離に位置し、自動車産業の盛んな豊田市に隣接するなどの地理的条件から、人口増加と工場進出が始まりました。現在は製造品出荷額が1兆8000億円にも達する工業

都市となりましたが、一方で市域面積の約半分は優良農地で占められており、農工商の調和の取れたまちになっています。

ところが、大半の市民が「暮らしやすいまち」と評価する市民アンケート結果の一方、遠隔地の方から「安城ってどんなまち？」と尋ねられたとき、一言でまちの魅力を表現することが難しいと感じられます。先人たちが産業を興し、交通を円滑にし、社会基盤を整備し、バランスの取れた発展を遂げられたと思うのですが、その半面でもちの個性が見えにくくなっているのではないかと。平成15年に市長に就任したときの私の感想でした。

ちょうど総合計画の構想作りが進められようとしていた矢先でしたので、新しい総合計画の目指す都市像は、従来型の総花的なもの

ではなく、まちの個性をイメージしやすいものとした。そう考え、本市の特性を生かして日本の環境首都を目指すこととしました。田園地帯に開かれた都市です。この発想への賛同者は多かったのですが、具体的に何をすれば環境首都に至るのかが問題でした。そこで環境に関心の深い市民や有識者の方々のご意見をお聴きし、次の3つのプロジェクトを進めることとしました。

①環境実践活動を進める人づくり

人づくりでは、まず専門的な知識を持ち、子どもから大人まで指導できる環境アドバイザーを育成することとしました。ま



明治用水の上部を自転車道として整備

る余地はありません。そこで市民に母なる矢作川の上流域に出掛けてもらい、植樹や杜の管理作業をしてもらうための支援活動を行っています。

また、下流部に暮らす者の使命として、公共施設にはできるだけ間伐材を使うこととし、特に学校の耐震改修や増改築などで、教室の壁に木材を利用することで、落ち着いた学習環境づくりが進んでいます。

③健康的で環境にやさしい交通環境づくり

市域全体が平坦な地形と、管



「分別ノムリエ」によるごみ分別の相談風景

も及ぶ自転車道が延びる特徴を十分に生かすべく、エコ・サイクルシティ計画を作成しました。自転車道のより一層の充実と、既存道路への自転車レーン開設など、単に自転車利用を奨励するだけでなく、交通安全対策も進めています。主要な駅や公共施設でのレンタサイクルも行っており、放置され壊れていた自転車を再生し、これを活用しています。公共交通の充実にも努めており、複数の大規模工場が点在する地域に鉄道新駅を建設し、企業からの協力も頂き、自動車から電車への通勤手段の切り替えを進めつつあります。

計画中間年の反省

これまで総合計画に沿った環境への取り組みを紹介しましたが、すべての取り組みが円滑に進んでいるわけではありません。今、私たちが直面している大きな壁は、ごみ減量の問題です。

過去10年間で、本市人口は13%以上の激増となりました。そのためごみ排出量も激増し、最終処分場の確保など多くの課題を抱えています。そこで市民の協力を頂き、

市民1人1日当たりのごみ排出量を、平成17年度比較で20%減らすこととしました。PR活動、新たなリサイクルルートの確保など懸命に努め、2年目で9%台の減少率となりましたが、3年目に入り10%を目前に顕著な効果が見られなくなりつつあります。行政と市民との協調の真価が問われています。多くの困難に直面しつつも、さまざまな施策展開が進められたのは、市役所の組織横断的な対応が可能となったことにあります。環

プロフィール

- ◆面積 86.01km²
- ◆人口 17万9860人
- ◆世帯数 6万7148世帯

〔将来都市像〕市民とともに育む環境首都・安城

〔まちの特徴〕愛知県のほぼ中央に位置し、新幹線「三河安城」駅を持つ。豊かな環境資源を生かしたまちづくりを推進し、環境首都を目指す。



安城市長 神谷 学



- 〔特産品〕イチジク、ナシ、小麦、キウリ、手延べそうめん
- 〔観光〕安城産業文化公園デンパーク、丈山苑、安城市歴史博物館
- 〔イベント〕安城七夕まつり(毎年8月の第1金曜日から3日間)、ふれあい田んぼアート

境政策に限らず大きな課題解決の鍵は、人材と組織にあるといえます。人材を育成し組織を機動的に動かし、全庁的な環境政策の展開ができたのは、環境政策を専門担当する副市長の存在が大きかったと振り返ります。近年、地球環境への関心が高まりつつあります。私たちは一過性のブームとしてこれをとらえることなく、市民の意識と都市構造を変え、持続可能な社会づくりを継続することが重要と考えています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「1メートルからの民主主義」で豊後大野をひとつに

はじめに

豊後大野市は九州山地の祖母傾国定公園のすそ野に位置し、恵まれた自然と母なる大野川の下で多くの歴史的・文化的資源を受け継いできました。自然と文化を未来へつなぎ、活力と安らぎのあるまちづくりを推進しているところです。

基幹産業は農林業で、水稲をはじめ肉用牛、葉タバコ、サトイモ、ピーマン、ナスなど各種の野菜の産地としてその品質は高い評価を頂いています。特に日本のシタケ栽培の発祥の地として全国にその名をとどろかせており、「全国乾椎茸品評会」では11年連続団体日本一の榮譽に輝く大分県シタケのけん引車としての役割を果たしてきました。その品質は世界一と自負しているところでもあります。

また、市内には5カ所の道の駅があり、市内各地の農産物を直販で提供しております。観光面では九州の名瀑で知られる幅120m、高さ20mの「原尻の滝」は日本の滝百選にも選ばれ、四季を通じて多くの観光客でにぎわっています。また、仏教文化も盛んで市内には多くの国指定重要文化財・国指定史跡、仏跡が点在し、中でも朝地町普光寺磨崖仏は鎌倉期、藤原期に造られ、県内最大の規模で、高さ11・3mの不動明王像は見るものを圧倒します。

人にやさしく、安心して暮らしていけるまち

安心して子どもを産み育てることのできる環境をつくるために、児童医療費助成制度を平成21年10月から実施をしたところ

です。景気に左右されず、子育てをする家庭の経済負担を軽減し、疾病の早期発見、治療につなげ、健やかな子どもたちの成長を支援するため、中学校3年生までの医療費を助成します。

また、現在医師不足対策のために、市立病院と県立三重病院の統合に向け準備を進めているところです。本年10月に開設される統合病院は、地域の中核病院としての役割を果たさねばなりません。そのために、医師や看護師などの確保に努め、施設・設備整備を十分に行い、質の高い安心できる医療が提供できる環境整備を県との共同責任で進めているところです。さらに、病院への交通の利便性を高め、市内の医療機関と十分な連携を図りながら、市民から愛され信

頼される市民病院を目指します。



日本の滝百選の一つ「原尻の滝」

高速情報通信網整備事業の実施

本市が抱える情報通信分野での諸課題を総合的に解決するために、市内全戸に光ファイバーを敷設し、高速情報通信網の整備を進めてい

ます。防災、福祉などの各種行政サービスの充実、商業や産業の振興、ブロードバンド環境の整備、地上デジタルテレビ放送への対応など、市民の安心安全の確保や地域の振興のために活用する予定です。

市役所の活性化と自治基本条例の制定

公務員は全体の奉仕者として公共の利益のために勤務し、かつ職務の遂行に当たっては、全力を挙げてこれに専念しなければなりません。市職員が住民の声をきちんと受け止めること、地域に住む生活者として意識すること、仕事の

専門性と政策能力を高めることを自覚し、大分県一の政策集団が集う自治体を目指して頑張っているところです。

また、職員の理解と協力を得ながら、職員の地域担当制(仮称)の実現を協議しております。各行政区が抱えている課題を職員が自治委員や市民と共有し、解決に向けての橋渡しをすることにより、行政と市民との距離を縮め、よりよい行政運営が行えることを目指します。

さらに、自治体の主権者であり、まちづくりの担い手である市民と市民の代表である議会、市政を執行する行政の役割や関係を明らかにし、市民が主体となって納得できるまちづくりを行うため、本市の憲法というべき「自治基本条例」を制定します。現在、「自治基本条例市民会議」での議論が行われていますが、この結果を受けて制定を行います。

市民との積極的対話の推進

私は平成21年4月から市政を預かっておりますが、本市が生まれて6年目を迎え、未来に希望の持てるまちづくりのため、このまちを誕生



市長と中学生との意見交換ふれあいミーティング

プロフィール

- ◆ 面積 603・36 km²
- ◆ 人口 4万1193人
- ◆ 世帯数 1万6430世帯

〔将来都市像〕豊かな自然と文化を未来につなぐ、やすらぎ交流都市
やさしく、たくましく、ともに築く豊後大野市

〔まちの特徴〕大分県の西南部、大野川の中・上流域に位置し、県内屈指の畑作地帯を形成し、有形、無形の地域資源に恵まれた名水・田園・観光のふるさと

〔市町村合併〕平成17年3月、三重町、



豊後大野市長 橋本祐輔



清川村、緒方町、朝地町、大野町、千歳村、犬飼町で新設合併

〔特産品〕甘藷、ピーマン、クリンピーチ、豊後牛、シイタケ、カボス

〔観光〕祖母山、原尻の滝、沈墮の滝、神楽会館(御嶽神楽、用作公園(紅葉「イベント」)犬飼名物どんこ釣り大会、ひょうたん祭り、真名野長者祭り、らいでん祭り、緒方五千石祭り、チューリップフェスタ、名水白山川ホタル祭り



日本一のシイタケ生産地

高め、本市は本当の意味でひとつになることができます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。